関西学院大学新聞

2015年4月1日 第819号

K.G. PRESS

■発行■
関西学院大学新聞総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原１番町１－155
関西学院大学新学生会館３F
電話：（0798）51－1181
E-mail：kgpress2009@yahoo.co.jp

心の受け皿を作れ

NEWS ZERO 村尾信尚さんインタビュー

今を生きる関学生に熱い言葉を贈る村尾さん

本学大学院教授でもあり、「NEWS ZERO」のキャスターとしてもお馴染みの村尾信尚さん。我々は2月21日に大阪梅田キャンパスで行われた梅田特別講演会「戦後70年：日本の課題」に潜入、そして講演会後、講師として登壇した村尾さんへの直接インタビューを敢行し、話を聞いた。村尾さんは一橋大学経済学部を卒業後、大蔵省に入り公務員として活躍した。その後、２００２年より本学の教授に着任、そして２００６年より「NEWS ZERO」のメインキャスターとして「若い人たちが見るニュース番組」をモットーに日々、報道という仕事に真摯に向き合っている。今回の単独インタビューで、我々は村尾さんが今の若者や自身の仕事についての思いを聞くことが出来た。

村尾さんは大蔵省に勤務していたころから「日本、社会を良くしたい」という熱い思いを常に持っていたのだという。実際、三重県に総務局長として赴任した際には、徹底した情報公開の下、市民目線の行財政改革を目指したり、三重県知事選挙に出馬したりするなどのアクションも行っている。その後、長年持ち続けてきた熱い思いに共鳴した関係者との出会いによって、テレビ出演、そして「NEWS ZERO」のメインキャスターへの抜擢が実現したそうだ。

村尾さんは「若い人たちが番組を見てくれるようになり、影響力が大きくなっていると感じている。これからも様々な情報を伝えていかなければならない」とインタビューの中で答えた。

また、村尾さんは関学に対する印象について「『Decent（上品、まじめ）』がふさわしい、品位ある大学である」と語り、公のためにつくすという本学の精神「Mastery for Service」や、キリスト教精神に基づく人間の徳に重きを置いた方針が好きであるとも話した。

そして今の若い人達に向けて「これからも平和な国として歩んでいく中で、排他的主義に陥らず異なるものや人を受け入れていくことが大切になってくる」と話した。

また関学生、特に新しく関学の一員となる新入生に対して「まずは人の痛みを分かる人間になってほしい。相手の事を考え、思いやることの出来る想像力・やさしさを大学生活で身に付けてほしい」と語った。そして「関学という違う環境で成長すると共に、海外にも飛び出してほしい。勉強も大切だが、それ以上に『世界の人と仲良くする心の受け皿を作ること』も大切である。関学を飛び出してさらに自分自身の可能性を広げてほしい」とメッセージを送った。

入学おめでとう 新入生への祝辞

関西学院院長 Ruth M. Grubel

Welcome to Kwansei Gakuin University! I am very happy that you have become part of our Learning Community. During your time as a student here, I hope that you will take advantage of the many opportunities we offer to learn and experience things that you will treasure for the rest of your life. You will surely meet friends who will be important partners in your life, and you may discover the fields in which you want to study and work. You may also experience the excitement of sports competitions, as well as performances by many different cultural groups.

While you are here, I hope that you will be able to get to know people who have different experiences from you. People with different languages, religions, cultures, ages, abilities, and so on, make our community a rich and diverse place. It is only by learning how to live positively with people who have diverse perspectives and experiences that we can become world citizens. Just living with others is not enough. Just meeting people from different cultures and orientations is not enough.

The objective of an“inclusive community,”which Kwansei Gakuin is seeking to create, is not just for different people to live peacefully together, but to ensure that there is mutual respect among the different members. We want to create an environment that encourages each person to seek their own unique strengths, and develop them for the sake of a better society and world.

It will be exciting to see what kinds of creativity and vision can be born at our university this year. I pray that you will receive the respect and encouragement you need to pursue your dreams here, and that you will also give others the chance to reach for their life missions.

学長 村田 治

新入生の皆さん、関西学院大学へのご入学おめでとうございます。教職員、在学生を代表して心から歓迎いたします。

冷戦の終結やICT技術の発達などによって、世界が小さくなりグローバル化が急速に進んでいます。新入生の皆さんが社会に出て働く頃には、ほとんどの人が仕事の上で海外とのやり取りを行うようになるでしょう。そのためにも、英語の運用能力を高めるこことは勿論のこと、大学時代に一度は海外に出て行ってほしいと思います。

関西学院大学は、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業に採択されました。その構想名は「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」というものです。その基本にあるのが、入学した学部での学びの他に、①海外留学等のインターナショナルプログラム、②他分野を学ぶ副専攻プログラム、③実践的な学びであるハンズオン・ラーニング・プログラムのいずれかに挑戦するダブルチャレンジ制度です。二つのことに同時に挑戦することによって、主体性が身につき、世界の多様な文化や思考への認識も深まります。何よりも、未知へのチャレンジ精神が培われることでしょう。これから世界が必要としている能力・資質が養われることは間違いないと考えます。

第４代院長C. J. L ベーツ先生は、関西学院の建学の精神を“Mastery for Service”（奉仕のための練達）というスクール・モットーとして表現しました。自分の利益のためにだけではなく、世界人類のために自分を鍛えよと訴えられたのです。皆さんは、関西学院大学での学びにおいて、スクール・モットー“Mastery for Service”の意味を考えてほしいと思います。

自分自身にチャレンジし自己を鍛え、世界に羽ばたいて世界人類の幸福に貢献するという「高い志」を持ってほしいと心から願います。

図書館長 奥野 卓司

ご入学おめでとうございます。皆さんは、これまでの高校や入試の勉強で、最初から正答を与えられてそれを記憶するということが多かったと思います。しかし、大学に入り、これからは自らの将来や社会の課題を発見し、それを読み解く方法を考え、自分で追究していく立場になりました。あるいは、同じ課題をもった仲間とともに、資料を探し、意見を交わしながら、問題追及し、実際の社会に生かすことも必要です。

これをアクティブ・ラーニングと呼び、関西学院大学では、各学部で様々な機会が提供されています。そして、すべての学部の学生さんに、学部の枠を超えて融合し、アクティブ・ラーニングの核となるのが大学図書館です。

図書館には、皆さんのそれぞれの探究課題に参考になる本、研究の資料とすべき本を高校とは比べものにならないほど多数そろえています。さらにDVDで映像資料を観ることも、世界の美しい画集に感動することもできます。

このことは、図書館に実際に来て館内を歩かれると、もっともよく実感されると思います。しかし、今すぐ、あなたがもっているスマホやタブレットで関学図書館のホームページを検索してもらってもそれがわかるでしょう。

パソコン、スマホからは、図書館の本や雑誌を探すだけでなく、世界中の専門雑誌や、新聞などのデータベース、関学図書館だけが所蔵している世界的に貴重な史料、日本の近世の読物、関学の先生や大学院生たちの論文も閲覧できます。関西学院大学図書館は書籍、雑誌の電子化に積極的に対応しています。

また、これから留学しようとする学生さんには、現地のガイドブックだけでなく、海外に行ったとき必ず尋ねられる日本に関する知識、伝統文化から、マンガ、アニメに関してまで、英語で説明できる本を、グローバルコーナーに取り揃えています。

分からないことは図書館にきて館員にきけば親切に教えてもらえます。どうか大学図書館を皆さんの学習、就活、留学、趣味に、積極的に利用してください。

●2,3面 KGニュース
理工学部新学科設置
【連載】追跡!! SGU
●4,5面 クラブ特集
●6面 連載記事
●7面 K.G.studio
●8面 下宿生と実家生のライフスタイル特集

ポプラ

3月下旬から4月上旬にかけ、菜の花の咲く時期に降り続く寒々とした雨のことを「菜種梅雨」という。菜の花の甘い香りが漂ってきそうな名前である。菜の花をはじめ様々な花を催すという意味で、「催花雨」という別名もある。これと同じ発音の「菜花雨」から「菜種梅雨」になったという説もある。春から夏にかけては、植物にとって成長を促す大切な雨が降ることから、この時期の雨には植物の名前が付いているものが多い。5月初旬は「たけのこ梅雨」、5月中旬からは「卯の花たくし」、そして梅の実が熟す頃に本格的な「梅雨」がやってくる。なんともうまい具合に春から夏への移り変わりを表わしている。四季もまた、雨の名によりうかがい知ることができる。春の雨は「桜流し」、夏の雨は「翠雨」、秋の雨は「秋霖」、冬の雨は「氷雨」と呼ばれる。このように、季節が移ろい、それにより雨の名も変化するのは日本ならではだ。四季があるこの国だからこそ、雨も風情あるものとして人々に受け入れられた。新入生のみなさんを季節感の込もった雨で表すなら、まさに「菜種梅雨」である。関学に彩りをもたらし、新たな季節の到来を告げる象徴なのだ。新入生のみなさんが、思い思いに充実した大学生活を送れることを願っている。

～三田から世界へ～

理工学部　新学科設置

本学理工学部に今年度から「先進エネルギーナノ工学科」「環境・応用化学科」「生命医化学科」の3学科が新たに設置される。これにより理工学部は9学科の体制となり、さらなる学びの充実が図られることになる。今回、これらの新学科設置について三田キャンパス事務室理工学部担当の職員の方に話を聞いた。

まず、新学科設置の背景について「1960年の理学部（当時）設立時には自然原理や自然現象についての基礎研究が中心であったが、その後本学の理念である『Mastery for Service』を実現するべく、より直接的に社会に貢献していく工学分野の必要性が高まった。社会からの要請も相まって工学要素の強い研究を行う学科を拡充しており、今回もその一環である」と話した。

では、今回新設された3学科はどのような学科なのだろうか？武田さんは「グリーンイノベーション（環境に配慮し、持続可能な発展を目指す）とライフイノベーション（健康長寿社会の実現、QOL向上）をキーワードに喫緊の課題に挑戦する学科である」とまとめた。例えば先進エネルギーナノ工学科ではクリーンエネルギーを「作る」「蓄える」「運ぶ」「使う」という一連の流れをすべて研究対象とし、次世代エネルギー開発の先端を行くことを目指している。また、環境・応用化学科では環境に配慮した未来のテクノロジーの開発研究を行い、生命医化学科ではiPS細胞に代表される再生医療研究や、がんの発生の仕組みなどを研究するそうだ。いずれの学科も選りすぐりの教員を揃え、研究活動を実りあるものにしていく体制を作り上げている。

また、受験生の関心も高くなっているそうだ。説明会などで学科の先生たちの話を聞いて受験生の目が輝く場面も多くあったという。

最後に「関学は文系の学生さんが圧倒的に多く、理工学部は遠い存在に思えるかもしれないが、理工学部が日本の、そして世界の未来を作り出す拠点となる事を知ってほしい」と話した。

新学科設置によって新たな一歩を踏み出した理工学部の「未来を作り出す」という挑戦はこれからも続く。

関学レインボーウィーク開催

～多様性に理解を～

本学では、5月11日から一週間、今年で三度目のレインボーウィークが開催される。レインボーウィークとは本学に関わる全ての人にLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーといった性的マイノリティの総称）について考えてもらうイベントだ。期間中は、LGBTに関する講演会や映画上映、教職員からのメッセージの展示、全員参加型の音楽ライブなどを催す予定だ。

第一回からイベントに関わっている本学人権教育研究室職員の北山雅博さんは「今までの価値観を疑ったり、新たな視点を学んだりするのが大学だと思う。社会に出れば様々な人々と出会う。大学でLGBTについて学ぶことは、『あの人はあの人』と排除するのではなく、多様性を受け入れ理解する知識を養うことにつながる。『分からない』『知らない』と決め付けるのではなく、このレインボーウィークに可能な限り参加し、色んな人が共存していることを実感してほしい。傍観するのではなく、自らが参加することにより、理解や親しみ、絆が生まれるはずだ」と語った。

期間中はLGBTコミュニティの象徴である、多様性を表すレインボーフラッグが学内に掲げられる予定だ。また、レインボーシールの配布も行う。これについて北山さんは「偏見や差別は『知らないこと』から始まると思う。レインボーの本当の意味を理解し、関学生全員がレインボーの表す意味について説明できるようになってほしい。レインボーウィークが終わっても、シールを身に付け目にすることによって当事者や支援者の輪が広がり、LGBTについて考え続けていくきっかけになれば嬉しい」と話した。

また、LGBT当事者の学生に対し「関学では、教員に向けたLGBTについての研修会を行っており、LGBTについて理解のある人間が確実に増えてきている。我々が誰にとっても『生きやすい』関学になるように努力をしていることを知ってほしい」と訴えた。

1990年5月17日はWHO（世界保健機関）の作る精神疾患のリストから同性愛の項目が外された日、つまり同性愛は病気ではないと認められた日である。レインボーウィークはこの日に合わせて開催される。初夏の青空に旗めく虹色を見て、あなたは何を思うだろうか。

去年雨の中行われたゲリラライブの様子

見事なハーモニーで魅せた

交響楽団第124回定期演奏会

2月17日、兵庫県立芸術文化ホールにて関西学院交響楽団による第124回定期演奏会が行われた。今回の演奏会は、4回生にとって引退となる演奏会である。当日は会場に1204人もの観客が詰め寄った。始めに本学の創立125周年を記念して、校歌「空の翼」が力強く演奏され、会場を沸かせた。

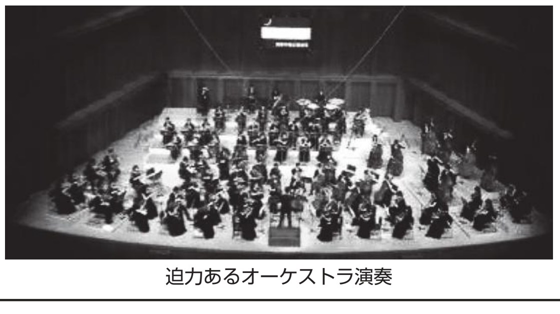
クラシックに入って一曲目は、バレエ組曲「コッペリア」より前奏とマズルカだ。ワルツ調の可愛らしい音楽の中、ホルンの美しい音色がメロディーを奏で、観客を喜劇コッペリアの世界へと引き込んだ。

二曲目では、ハイドンの主題による変奏曲Op.56aが演奏された。この曲にはいくつもの変奏曲が組み合わさっており、楽器がそれぞれの持ち味を生かしてバリエーション豊かな演奏が披露され、そして最後は力強く全パートの和音で終えた。

最後の曲は、交響曲第5番ホ短調Op.64だ。曲中では弦楽器と管楽器が見事に掛け合いながら、主題が繰り返された。暗く荘厳なメロディーかと思いきや、終盤は爽快なテンポで一気に駆け抜け、トランペット、オーボエ、ホルンが豪快で華々しいフィナーレを飾った。演奏が終わると、客席は拍手の嵐に包まれ大きな歓声が上がった。

部長の三井剛介さん（文・OB　15年卒）は、今回の定期演奏会を振り返って「平日だったにもかかわらずたくさんのお客さんが来て下さり、団員も一致団結して心のこもった演奏を届けられたので良かった。今回自分が特に思い入れのある曲は、交響曲第5番。とても難しい曲だったが、〝苦悩から歓喜へ〟という曲のテーマは、卒団する自分たちの思いにぴったりだった」と語った。また、後輩に向けて「部長として、色々と迷惑をかけたこともあったが、1年間ついてきてくれて感謝している。これからも頑張って欲しい」と応援のメッセージを投げかけた。

4回生にとって最後の演奏会となった一夜は、大盛況で幕を閉じた。



迫力あるオーケストラ演奏

関学に眠る貴重な資料を公開！

大学博物館

2月23日から5月9日にかけて時計台2階展示室2において、平常展「Gift for the Future　関西学院のあゆみ―学院創立にかけた情熱―」が開催されている。

今回の展示ではテーマを「学院創立にかけた情熱」と設定し、学院草創期の25年に焦点を当てている。関西学院の創立者であるW.R.ランバスをはじめとして、第1―4代院長の4人のエピソードが紹介されている。本学の歴史について知りたい人は、ぜひ訪れてほしい。

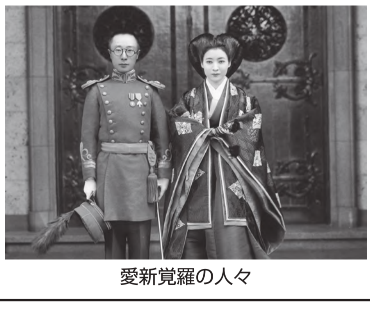
また同期間中の時計台2階展示室3では、特集陳列「時計台を描く」が開催されており、吉原治良、児玉幸雄といった美術家の残した時計台の絵を見ることができる。こちらも必見だ。

平常展、特集陳列が終了すると、次は企画展「愛新覚羅の人々 ―相依為命―」が開催される。期間は5月18日から7月18日で、場所は時計台2階展示室2・3である。

企画展について、大学博物館の博物館学芸員特別講師の髙木香奈子先生と学芸アシスタントの木場貴俊先生にお話を聞いた。企画展では、愛新覚羅溥傑・浩夫妻および子の慧生・嫮生両氏に関する書画や写真、手紙といった約1000点の資料の一部が公開される予定だ。髙木先生によると「西宮にお住いの嫮生氏をある方に紹介してもらったことがきっかけで、大学に嫮生氏の所有する資料を寄贈していただいた」と企画展が開催されることになった経緯を話した。また木場先生によると「この企画展では、彼らが過ごした激動の昭和史や日本と中国が如何にして交流するようになったかが分かるだろう」と話した。

企画展で展示される資料はどれも貴重なものばかりだ。平常展、特集陳列同様入場は無料なので、この機会にこちらの展示にも足を運ぶことをおすすめする。

Gift for the Future



愛新覚羅の人々

追跡!! SGU 第2回 「ダブルチャレンジ制度」

前号から本学のスーパーグローバル大学事業についてシリーズでお伝えしている「追跡!!ＳＧＵ」。今回からは具体的な5つのキーワード（表参照）について一つ一つ「追跡」していく。今回は今年度から新たに始動する「ダブルチャレンジ」制度を取り上げる。

ダブルチャレンジ制度とは従来の学部での学び（ホームチャレンジ）とは別に留学や他分野の学習、学外での実践活動などのプログラム（アウェイチャレンジ）の中から一つを選んで単位を取得して卒業するという制度である。具体的には「インターナショナルプログラム」「副専攻プログラム」「ハンズオン・ラーニング・プログラム」の３つからなる。このうち１つ目のインターナショナルプログラムは「母国を出て、世界を知る」をコンセプトに協定校への長期・中期・短期の留学や、国際ボランティア等に挑戦する。

２つ目の副専攻プログラムは、自分の所属している学部を飛び出し、他分野を学ぶプログラムで、例えば経済学部の学生が法学部の分野を学ぶもので、現在も複数分野専攻制がある。これを通して、複眼的な視野を身に付け、自分の専門分野を相対的な視野を持って見つめなおすことも可能になる。

そして３つ目のハンズオン・ラーニング・プログラム（実践型学習）は「学校を出て、実社会を経験する」をコンセプトに、従来学生が教授の講義を受動的に受けるだけのスタイルから、サービスラーニング（ボランティアと事後教育を結合させた授業）やフィールドワーク、ＰＢＬ（問題解決型授業）といったアクティブラーニング（能動的学習）を展開し、多様な学び方を提供することを目標とする。

この３つの施策、実は日本の大学教育が抱える課題をも表している。現代社会でグローバル化が叫ばれ、学生の海外留学が促されていることに加え、日本は諸外国と比べ1、2回生のうちから専門性の高い授業に接する機会が多く、視野が狭くなりがちになると言われている。また、「知識を伝える場」から「その知識を活用する能力を身に付ける場」に大学教育全体の流れがシフトしつつあることも今回のダブルチャレンジ制度の骨格形成に大きく影響している。

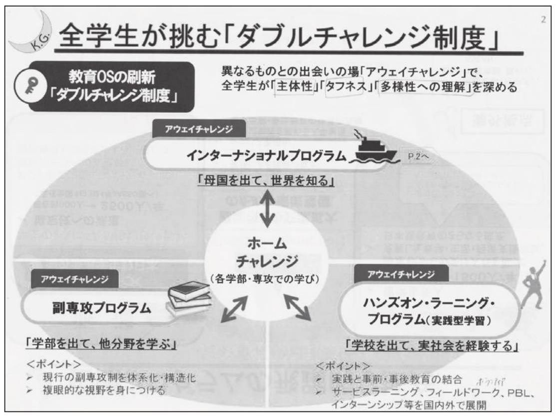
では、この制度によって関学生はどのように成長することが出来るのだろうか？この制度の狙いは「主体性」「タフネス」そして「多様性の理解」を深めることなのだという。初めの２つは、企業が求める人材に必要な要素として身に付けてほしいものとして常に挙げられるものであり、主体的に行動し、精神的にも肉体的にも強くあることを指す。そして３つ目の多様性の理解は、グローバル社会になりつつある現代において、民族や文化の違う人と共に仕事をしていく中で必要な要素となるものである。つまり、これらの制度にチャレンジすることによって異なる人やモノと出会い、それまでの自分とは違った「新しい可能性を持つ自分」に生まれ変わることをこの制度は含んでいるという事なのである。

また、大学としては学生たちに多様な経験を積んでほしいという願いもある。失敗を恐れずに様々なことに挑戦してほしいという、いわば「背中を押す」役割を本学はこの制度を通して今後目指していくのだという。

まだ不透明な部分も多いこの施策であるが、今後プログラムが展開していく中で新たな形の「チャレンジ」が生まれていくことは間違いない。また、今年度からはあくまでも「推奨」という形でスタートするが、最終的には平成31年度（２０１９年度）入学生より全学生必修とし、平成34年度（２０２２年度）末の段階で1学年の入学定員５７００名がこのプログラムを修了して卒業することを目標としている。

多様性を持ち、どんな逆境にも負けない力を持つ関学生が世界に羽ばたいて活躍する日はそう遠い未来の出来事ではない。

スーパーグローバル大学選定を受けて導入される新施策
①「ダブルチャレンジ制度」
②「協定に基づく海外派遣学生数日本一」
③「国連・国際機関等へのゲートウェイ創設」
④「国際通用性のある質保証システムを構築」
⑤「ガバナンス改革による総合的マネジメント実現」



論説 日進月歩

『イスラム国 恐怖の洗脳技術』

今年1月、イスラム国（ＩＳＩＬ）による日本人２名の拘束事件が起こった。人質の解放を求め、政府は1ヶ月に及びイスラム国との交渉を続けた。しかし最後には人質2名共が殺害されるという非常に痛ましい結末を迎えた。また、遺憾にも拘束された人質1名を実際に殺害する際の動画がインターネット上にアップロードされ、大衆の目にさらしたことも記憶に新しい。今回は動画やＳＮＳを駆使して人の心を操る、イスラム国の情報戦略について記載する。

イスラム国は、イラクのテロ組織「アルカイダ」を母体とするテロ組織である。イスラム圏の統一とイスラム法に則った国家の設立を目的とし、自分たちをシリアの都市ラッカを首都とした正式な国家であると主張している。

イスラム国の広報技術はこれまでの国際テロ組織の中でも群を抜いて高い。「ダビーク」というウェブマガジンを主な媒体とし、教典コーランの内容やメンバーの勧誘情報を世界中に発信している。これまでイスラムテロ組織は情報発信の際アラビア語を用いることが多く、アラビア語圏以外の教徒にまで情報が届きにくかった。しかし、イスラム国は英語やフランス語、ドイツ語など複数の言語を巧みに駆使することにより、これまで情報が行き届いていなかった欧米やヨーロッパ圏の2世、3世イスラム教徒（祖先が中東からの移民であり、本人たちは移民先の国生まれ）に情報を伝達した。結果的に、これまでテロに加わる人が少なかった国からも人が集まることになり、イスラム国は今日最大のテロ組織へと成長した。諸外国は、このイスラム国の台頭を予期することができず突如として現れたイスラム国に対し、非常に手を焼かされている。

こういった情報による人々の扇動は日本人にも関係のない話ではない。先日起こった日本人拘束事件では、人質が殺害される動画がYouTubeにアップロードされた。これらの動画は即刻削除されたが、一部の人が動画を保存し、インターネット上に放出した。主にＳＮＳを通して大衆の目にさらされることとなったのだ。これらの動画には残虐行為をある種、身近なものに感じさせるための工夫が施されている。

例えば、イスラム国が人質を殺害するための方法は主に首の切断だ。しかし、動画では殺害を実行する際、切断の瞬間が意図的カットされており、人質殺害の刹那の瞬間が映されない。動画を見た人々はイスラム国の残虐性に恐怖を感じつつも、どこかでそれを演出であるかのように錯覚する。人々の残虐行為に対する心理的ハードルは下がってしまい、イスラム国の行為に、恐怖とは別の、ある種の関心を寄せてしまうのである。実際欧米やヨーロッパでは、多くの若者がこれらの動画を目にし、イスラム国に関心を持ったり、中には触発されて加入したりする者も現れた。

ＳＮＳやインターネットを通して気軽に動画や情報を目にする日本人にも、欧米同様イスラム国の魔の手が迫っているといえるだろう。

そういった動画を見かけたとき思い出してほしいのは、殺された人質のことだ。彼らは命を賭してイスラム国への潜入を図った。それは中東で起こっている真実を伝え、少しでもこの現状を改善しようとする、とてつもなく勇気ある行動である。そんな彼らの死を、ネット上の動画はまるでさも見せ物のように軽んじて映し出している。

この動画が人の死を冒涜していることは言うまでもない。そしてこれらの動画を面白半分で覗くことも同罪であろう。自らの死の瞬間を、都合のいいように加工され、遊び半分で覗かれることがどれほどに屈辱的なことであるのかを一度想像してほしい。

我々はイスラム国の洗脳を避けるため、そしてなにより殺された人々をこれ以上辱めないためにも、常に情報を取捨選択する必要があるだろう。

実地的な取り組みを行えない我々が、イスラム国の問題に関われることはそう多くない。戦地へ向けて物資や金銭の寄付を行う。歴史背景や国際情勢、戦地でおこる真実といった、本質の情報を掴み、自分の考えを発信する。せいぜいそんなところだ。できることの少ない現状で、我々はせめてイスラム国が広げようとしている狂気の渦を少しでも食い止める努力をしていく必要があるだろう。

クラブ探訪記

ユースホステル部

学生生活でたくさん旅行がしたいと思う学生は多い。そんな学生にぴったりなのがユースホステル部だ。

ユースホステル部では、一番の行事である春・夏合宿、ほかにも他大学のユースホステル部との交流行事、子どもキャンプなど様々な活動を行っている。部長の土居奈苗さん（社・3）は、「一緒に旅をするだけあって、やはり部員同士の仲がとても良くアットホームな雰囲気なのがこの部の魅力です。特に先輩後輩間での仲がとても良く、私も新歓に行ったときは誰が先輩か分からなかったほどです（笑）その反面で毎週行われる会議には全員参加するなどメリハリをつけて活動しています。メインとなる春・夏の合宿ではいくつかのコースの中から自分の行きたい場所を選べるので、自分に合った旅を楽しめると思います。合宿では、ときには10日以上することもあり、安くて充実した旅ができるのはうちの部活ならではの特権です！」と語る。

また、新入生に向けて「ユースホステル部では、学生のうちにしか出来ない素敵な体験がたくさんできるのが最大の魅力です。旅が好きな人、自然が好きな人、少しでも興味のある人はぜひ、気軽に部室に来てください！」と語った。

ユースホステル部　年間スケジュール

２月	春合宿
４月	新歓
６月	若葉行事
８月	夏合宿 オープンキャンプ
10月	後期交換会
11月	新月祭での出店

ユースホステル部　基本情報

活動場所　部室（新学生会館３F）
活動日　月曜日　18:50～20:30
部　員　16名
連絡先　土居 奈苗
fqy33529@kwansei.ac.jp
ブログURL http://kgyh.jugem.jp/

Gallery

部長の土居奈苗さん

関西学院グリークラブ

本学が誇る「関西学院グリークラブ」（以下、グリークラブ）は、日本で初めての男声合唱団としての長い伝統を持っており、毎年全国コンクール１位をかけてしのぎを削っている、本学の名門クラブである。入学式や卒業式といった学院の行事では、必ずと言って良いほどグリークラブの演奏が披露される。また、老人ホームや企業からの依頼を

に関するすご過ぎる話ばかり聞いていたので尻込みしたが、友達や先輩に恵まれ、部の雰囲気が良かったので入部を決めた」と語る。

ものの、明確なビジョンを持つことができていない人には、ぜひグリークラブを訪れてほしい。そのエネルギーを余すことなくぶつけられ、努

Gallery

部長の手島さん（左）と、人事の余田さん（右）

劇研究部　劇団狸寝入

劇研究部劇団狸寝入は、脚本や大道具、小道具の製作、音響や照明のセッティングなど、一から演劇を作り上げ、それを公演することを目的とする部活動である。稽古は週4回と少し忙しいが、年４回ある舞台全てに関わらなくてはならないということではなく、自分の予定に合わせて、参加するか否かを選ぶことができる。

部活紹介にあたって、劇団狸寝入部長の山本サーモンこと山本久瑠実さん（商・３）にお話を聞いた。まず劇団狸寝入の特徴について、山本さんは「本学には他にもいくつかの演劇に関する団体がありますが、自分たちで脚本を作ることができるのは劇団狸寝入だけです」と話す。役者志望でなくとも、創作が好きな人には大変嬉しい特徴だろう。また役者志望の人についても「基本的にオーディションは行わないので、出演したいと思ったら必ず出演できます」とのことだ。もちろん、照明や音響といった裏方専門の活動も可能だ。

舞台発表に至るまでには、いくつかの過程を踏む。最初は企画会議だ。この会議では、次に予定されている舞台の脚本案を各々提出し合い、どれがよいかを決める。次に役者たちによる稽古が始まる。期間は二ヶ月だ。それと並行して、裏方担当は舞台上に設置する大道具の作成、照明や音響の準備を行う。本番一週間前になると、「仕込み」と呼ばれる期間に入る。この期間では、実際の舞台となる旧学生会館ママ上ホールに場所を移して稽古が行われる。その後、本番前日にリハーサルが行われ、そしていよいよ本番を迎える。

山本さんに劇団狸寝入の魅力について尋ねた。まず山本さんは「部員が皆仲良しであること」を挙げた。「先輩や後輩といった関係をあまり意識する必要がなく、アットホームな雰囲気です」と話す山本さん自身も、入部した理由の一つがこの雰囲気の良さだったそうだ。また「演劇を自分たちの手で作り上げるといった活動は、大学生の間でしかできないことです。その中で将来に活きるような様々なスキルを身に付けることができます」とも話した。

劇団狸寝入について話す中で、山本さんは「忙しいけど大変充実した日々が送れます」と語った。このような学生生活を望む学生は、４月に行われる新入生歓迎公演を見に行くことをおすすめする。公演後には、新入生向けに体験稽古が行われるため、部の雰囲気を肌で感じることができるだろう。

劇団狸寝入　年間スケジュール

４月	新入生歓迎公演
６月	２回生実験公演
８月	合宿
10月	新入生デビュー公演
12月	３回生引退公演

劇団狸寝入　基本情報

活動場所　旧学生会館2F劇研究部部室
活動日時　週４回
部員数　10人
連絡先　gekidantanukineiri@gmail.com

Gallery

応援団総部

応援団総部は指導部、吹奏楽部、チアリーダー部の三部で構成されている。今回は、

行っている。応援団と聞くと、練習が厳しいイメージがあるかもしれないが、平日の

指導部副団長の中西峻之さん

受けて外部演奏を行う等、活動範囲は全国に及んでいる。

しかし、グリークラブは決して合唱経験者ばかりの集まりではない。入部時に、部員の5割が音楽未経験者で、7割が合唱未経験者だったそうだ。自身も高校まではサッカーをしていたという人事の余田壮さん（経・4）は「グリークラブ

新入生に向けて、部長の手島理志さん（文・4）は「大学に入ったからには何かをしたいというエネルギーはある力、苦楽を共にする中で一生の友達を見つけられるのがグリークラブです」と力強く語った。

グリークラブ年間スケジュール

4月	新歓（BBQ、花見、体験練習）
6月	東西四連＠東京
8月	BBQ
10月	グリークラブフェスティバル、関西コンクール
11月	全国コンクール＠長崎
12月	クリスマス
2月	リサイタル＠東京、兵庫

グリークラブ 基本情報

活動場所	グリークラブホール(社会学部棟の裏)
活動日	火・木:18-20時 土：14-16時
部　員	100名
連絡先	手島理志 tadashi@kwansei.ac.jp

速記研究部

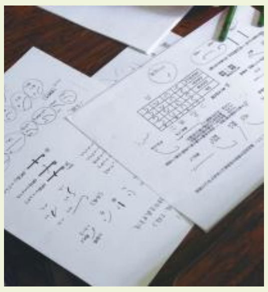
速記研究部は速記という特殊な文字や記号を使用して言葉を簡略し、早く正確に書き記す練習をしている。

普段の活動は週2回ほどで、自分の都合が良い空きコマや5限の時間帯などに練習できる。他の団体に所属したり、バイトや勉強などの両立をしたりしやすく、多くの部員が速記以外にも様々なことに打ち込んでいるという。

入部した全ての部員が速記未経験者なので、初心者でも上達することが出来るようなサポート体制が整っている。また、年に3回外部では速記技能検定も行われており、スキルアップがしやすい環境が用意されている。

速記の魅力について部長の肥前愛美さん（文・3）は、「速記はマイナーですが、日常でとても役に立つスキルです。例えば、私は話すスピードが速い先生の授業で速記の技術を活用しています。速記では、多くの文章を読むので、日本語力の向上にもつながりますよ」と話す。

部内での最大の目標は、毎年11月に行われる全日本大学速記競技大会で優勝することだそうで、そのために日々練習に励んでいるという。昨年部長を務めた中村一斗さん（神・4）は大学生から速記を始め、去年の大会で全国2位という成績を残した。速記は努力をすれば、上達できるスキルであり、全国優勝も夢ではない。



速記研究部は学年関係なく仲が良く、アットホームな雰囲気をもつ。長期休暇にはOB、OGが練習を見に来てくれるほど、卒業しても繋がりの深い部活だ。

大学に入り新しいことを始めたい学生、また役に立つスキルを身に付けたい学生にもおすすめである。

速記研究部 年間スケジュール

4月	新歓
6月	確定新歓、学生大会
8・9月	強化練習・夏合宿
10月	新人戦
11月	全日本大学速記競技大会
12月	クリスマスパーティ
2・3月	追コン・強化練習
2月	リサイタル＠東京、兵庫

速記研究部 基本情報

活動場所	新学生会館 3階 速記研究部部室
活動日	空コマや平日の5限の時間帯
部員数	50人
連絡先	mnm.xxx.iron@softbank.ne.jp

Gallery

その中から指導部を紹介したい。

指導部は、本学体育会の応援活動や、学外の依頼活動などを行っている。入学式などでも応援活動を行っているので、新入生の皆さんも既になじみがあるかもしれない。

指導部の魅力はどこにあるのだろうか。指導部副団長の中西峻之さん（教・4）は、「応援活動は見返りがないが、選手の力になっている、誰かのためになっていると実感できるのが魅力だ」と話す。

また、練習ではランニングや筋力トレーニング、応援歌の練習などを練習は昼休みのみなので、バイトなどと両立することも可能だ。また、大学になってから応援活動を始めた部員がほとんどなので、やる気があれば入団することが出来るのも魅力の一つである。

新入生にアピールしたい点について中西さんは「大学に入って、何か一つのことをやり遂げたい、自分を変えたい、成長したいと感じている人は、ぜひ指導部の門を叩いてみてください」と語った。

指導部 年間スケジュール

4月	幹部交代式、新歓、春の応援活動
5月	そんなあなたを応援します
6月	応援活動
7月	応援活動
8月	オープンキャンパスでのパフォーマンス
9月	秋の応援活動、連盟祭
10月	応援シーズン
11月	総部祭

指導部 基本情報

活動場所	本学食堂BIGママ前プラザ
活動日	月曜日から金曜日の昼休み
部　員	10名
連絡先	中西　峻之 bzb10888@kwansei.ac.jp

Gallery

新聞総部

新聞総部は文化系の部活動の活動紹介、学内の様々なイベントや式典など、関学に関わる様々な情報を学生に向けて発信している。

定例会議は毎週金曜日。新聞作成の打合せ会議が行われている。記事の作成や取材などの主な仕事は各自で行うことが多いため、他の部活に比べて融通が利きやすい。多くの部員がバイトやサークルなどと両立しながら活動を続けている。

新聞記者や編集者などマスコミ系の就職を志す学生が多く、将来の目標に向けて日々文章力やレイアウトデザインのセンスを磨いている。神戸新聞やラジオ関西などと関わる機会も多いため、マスコミ企業への就職を希望する学生は一度足を運んでみてはいかがだろう。

K.G. PRESS

新聞総部 年間スケジュール

1月、3月	新聞発行
4月	新歓
5月	新聞発行
7月	総会　新聞発行
8月	夏合宿
9月、11月	新聞発行　OB会
12月	総会

新聞総部 基本情報

活動場所	新学生会館3階
活動日	毎週金曜日 18:40～20:30
部　員	13名
連絡先	梶浦佑太 kgpress2009@yahoo.co.jp

教授の背中

上田和彦

法学部教授

フランス思想から世界を見る

今回取材したのは法学部の上田和彦先生である。専攻はフランス思想。キリスト教の絶対性が揺らぎ、民主主義が進展していくなかで、何を基にして社会的紐帯を築くべきかという問題が、思想史において繰り返し現れる。この問題にそれぞれのやり方で取り組む、ブランショ、レヴィナス、ナンシー、ラクー=ラバルトの議論を検討することを主な研究としている。また、ユダヤ人哲学者レヴィナスについて研究するうちに、ユダヤ人大量虐殺について思想史的に勉強するようになったという。「ユダヤ人のイメージが作られたのはいつごろか、どうして迫害されていったのか、現代を生きる我々は知っておかなくてはいけない」と話した。

先生は最近勃発しているイスラム過激派の問題に対しても危惧している。2015年1月9日にパリにあるユダヤ食品専門スーパーマーケットで人質事件が起こった。この事件について「キリスト教国家とイスラム教徒の対立が問題であるにも関わらず、ユダヤ教徒が巻き込まれている。反ユダヤ主義が現代にも別のかたちで起こってしまうのはとても怖い」と語った。

先生が大学に進学する頃、フランス哲学は活気に溢れていたという。そのような時代の中でフランス哲学を勉強しておかなくてはいけない、と考え専攻することにしたそうだ。大学、院と合わせて11年間も研究を続けた。そのうち2年半はフランスのストラスブールに留学をした。

先生は大学時代を「楽しかった」と振り返る。専門課程では少人数、時には一対一の授業もあり、濃い勉強が出来たという。「勉強に楽しさ、面白さを見つけることは大切だ。自発的に勉強をして、分かった時の達成感を体験してほしい。そのため、何かやりたいことを見つけて一生懸命になってほしい」と学生に助言した。

うえだ　かずひこ

1990年　東京大学教養学部教養学科卒業

2002年　東京大学大学院人文社会系研究科博士号（文学）取得

2003年　本学法学部専任講師就任

2004年　本学法学部助教授就任

2008年　本学法学部教授就任

Masterpieces

「オリエント急行の殺人」

アガサ・クリスティ

推理小説といえば、江戸川乱歩、東野圭吾や伊坂幸太郎と日本国内には多くの有名なミステリー作家がいる。そしてもちろん海外にも優れたミステリー作家は多く存在する。そして彼らの小説は、映画やテレビドラマなど様々な形で映像化されており、小説に興味がなくてもこれらを機に原作を読んでみようとする人も多いのではないだろうか。

今回紹介するのは『オリエント急行の殺人（原題：Murder on the Orient Express）』である。本作は「ミステリーの女王」と呼ばれたイギリスのミステリー作家アガサ・クリスティの代表作である。２０１５年の新春に舞台を日本の昭和初期に置き換えた翻案作品として映像化され、再び注目を集めた作品ともいえる。

物語は名探偵ポアロが、ヨーロッパへの帰途につくために乗車したオリエント急行の一等車両で起きた殺人事件から始まる。被害者である富豪ラチェットの死体には12か所の刺し傷があり、現場には燃やされた手紙があった。大雪で列車は立ち往生していたため、ポアロは容疑者を一等車両の乗客に絞り込んだが、彼らのアリバイは互いに補完されていた。

困惑しながらも、名探偵ポアロは事件の真相を導き出し、乗客たちに２つの解答を提示する。最終的にポアロはどちらの解答を選ぶのか、ぜひ読んで確認してみてはどうだろうか。

この物語は犯行のトリックも見どころであるが、犯行動機に隠された背景に描かれる家族の絆や人情は感動的なものである。普段推理小説に興味関心が無い人でもこの作品は読みやすく楽しめるものとなっているのではないだろうか。

関学ヒストリア

「旌忠碑」

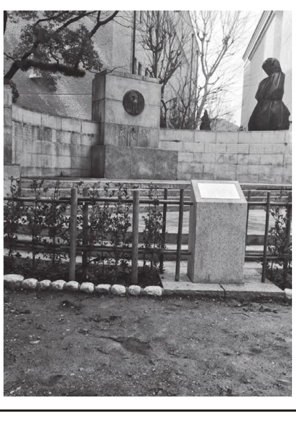
戦争と平和について考えるきっかけに

今回は、西宮上ケ原キャンパス中央講堂東側の広場にある旌忠碑について紹介したい。この碑は現在の私たちに20世紀当時の時代風潮を伝えるものである。

20世紀は「戦争の世紀」と呼ばれ、言わずもがな日本もこの時代の渦中にあった。本学からも多くの学生や卒業生が戦地に赴き、そこで没する者も出た。そんな中、１９３７年と１９３８年の二度にわたり本学は同窓戦没者の慰霊祭を行い、学生会や同窓会と諮りあって、合同で慰霊と鎮魂の意を込め、旌忠碑の建立を計画した。学院創立五十周年式典が挙行された１９３９年10月に定礎式が実施、翌年2月に碑は完成した。碑には、日清戦争以降、尊い命を戦地に終えた同窓１６９名の氏名が刻まれている。

「旌忠」とは、国家に対する忠義を顕彰することを意味し、碑の背面にある碑文には、自己を絶対的正義の立場に置いて他者を討つ意味を持つ中国古典の語句、また神武天皇の東征故事を述べる『日本書紀』の一説が引用されている。碑の前面には、神武東征を象徴する八咫烏の図像が配置されており、これらは、当時の時代を色濃く反映しているため、戦後の碑のふさわしいあり方が何度か検討された。

同窓戦没者への哀悼の意を表わすと同時に、色々な形で被害を蒙った人々への悔悟と自戒の念を持って思いを馳せる意が、この碑にはこもっている。この碑に名が刻まれた私たちの先輩を忘れることなく、今日の平和に感謝すると同時に、戦争と平和の現代的意味についても考えてみたい。



旌忠碑　年表

1939年	学院創立五十周年の記念式に際し、旌忠碑の定礎式を挙行
1940年	旌忠碑の除幕式を挙行
1961年	多くの同窓の願いにより、旌忠碑の手入れを実施
1965年	戦没者追悼式典が旌忠碑の前で礼拝形式で実施（４年間のみ）
2001年	旌忠碑に関する資料『旌忠碑』を作成、旌忠碑のプレート設置

K.G. studio

今回のK.G.studioは部室だよりとK.G.PEOPLEです。部室だよりでは総部放送局の局長、石野太一さんに、K.G.PEOPLEでは関学自主映画製作委員会で活躍している中村建二郎さんにお話を聞きました。

部室だより vol.12 総部放送局

総部放送局

人数	83人
創年部	1949年
活動	研究部や時期によって異なるが基本火、木
活動場所	新学生会館２階 総武放送局部室
連絡先	fqz00046@kwansei.ac.jp 局長 石野太一

総部放送局の局長、石野太一さん（社・3）に話を聞いた。

新聞総部（以下、新）：総部放送局(以下、局)は普段どのような活動をしていますか。

石野さん（以下、石）：局は、アナウンス、ドラマ、技術、報道、そして僕が所属している制作の５つの研究部に分かれて活動を行っています。春学期は火曜日と木曜日の週２回の練習。秋学期は学祭の時期に開催される屋外イベントやNHK全国大学放送コンテストに向けての映像制作を行っています。

新：なるほど！そう言えば、もうすぐ局主催の部活紹介イベント、キャンパスライフABCが行われますよね。新聞総部も部活紹介のプレゼンテーションをさせて頂けるとお伺いしています。

石：そうですよね。実はこのイベントは今年度から始める取り組みなのです。

新：えっ、そうなのですか！

石：はい。関学に実在する団体の良さを紹介するという局としての役割を果たすと同時に、局の知名度の向上も図ろうと考えています。また、お昼の放送を月に1回、生放送でしようと考えています。プラザでステージを組み、そこにゲストを呼んで行うのです。そしてそれがステージで見られるだけでなく、校内中にも放送されます。

新：すごいですね！では今年度は局にとって改革の年になる訳ですね。

石：そうですね。

新：局の雰囲気はどのような感じですか。

石：先輩と後輩の仲がとても良く、楽しい雰囲気です。しかし、当然楽な部活動ではないので忙しく、また、校内唯一の放送機関であるため責任も伴います。局はその責任感を各々がしっかり持っていて、凄く良い雰囲気だと思います。

新：部員はやはりマスコミ志望の人が多いですか。

石：多いですね。特にアナウンス研究部はアナウンサーになることを目指して入ってきている人が多く、卒業生でアナウンサーになられた方も多いです。テレビ局以外にもカメラマンになりたい人や新聞社で働きたいという人がいますね。僕自身も、ラジオ局で働きたいという思いから入局しました。

新：ラジオは以前から良く聴いていたのですか。

石：はい。高校の時から通学の時に聴いていて楽しそうだと感じていました。

石野太一さん（社・3）

新：ラジオ局でどのような仕事をしたいのですか。

石：実は今はラジオ局ではなくなってしまって（笑）

新：あっ、そうなのですか！

石：局ではこういうことはあるあるなのです（笑）同じメディア系ではあるのですが、雑誌を読むことが好きなので今は出版社で働きたいと考えています。

新：最後に関学生に向けてPRしたいことはありますか。

石：やはり新歓祭ですね。新入生には特に来て欲しいです。皆さん、是非4月6日に開催されるキャンパスライフABCにお越し下さい。

新：今日は貴重なお話をどうもありがとうございました！

K.G.PEOPLE #11・全関学映画制作委員会 中村 建二郎さん（経・3）

今回紹介するのは、全関学自主映画製作委員会（以下、全関映）で活躍している中村建二郎さん（経・3）だ。

中村さんはもともと映画に興味を持っていたそうで、大学入学後グリークラブの一員として活躍していた傍ら、映画関係のサークルを見て回ったのだという。そして、グリーとの兼部も可能で、「映画を撮ってみたい」というあこがれを実現させることの出来る全関映のメンバーに加わった。

ところで、本学には全関映の他にも映画研究部があるが両者の違いは何だろうか？中村さんによると、映画作品を観てそれについて論評するのが映画研究会の主な活動なのに対して、全関映は作品を自分たちで作って上映することに重きを置いているのだという。「自分が見たいと思う映画を撮れ」というコンセプトの下、日々メンバーたちが作品作りに汗を流しているのだそうだ。「映画を通して自分の夢を作り上げることが出来る」と中村さんは話す。

これまでいくつもの作品制作にかかわってきた中村さん。これまでに一番印象に残っている場面について聞くと「『夜の傷』という作品を作ったときに、授業の合間に大教室で撮影をした場面があった。授業の合間なので多くの学生がいるなかで堂々と、そして一生懸命に撮影する先輩方の、映画に対する真摯な姿勢に感動したことが一番の思い出」と話した。

全関映 中村建二郎さん（経・3）写真中央

そして、全関映は映画を撮るだけのサークルではないとも中村さんは語っている。例えば、毎年1回行われている関西学生映画祭にも参加し、他大学と合同撮影会を行ったり結びつきを強めたりしているそうだ。また、3月に新たに行われる地域振興イベント「大甲東宴」への参加も挙げられる。このイベントは、甲東園駅周辺の地域を再び活気づけ、町の良さを再確認してもらおうと企画されたイベントで、全関映もイベントが行われるまでの様々な過程をドキュメンタリー映画として撮影していくのだという。中村さんも「地域とのつながりを再確認できるいい機会で、僕自身も楽しみにしている」と話している。

最後に中村さんは「映像を使って何かを伝える、作り出していく楽しみを全関映で味わえると思う。今までは出来なかったようなことでも楽しんで取り組めるサークルなので新しいことに取り組んでみたい人にも興味を持ってほしい」と話し、4月に行われる新歓にも「ぜひお越しください」と呼びかけた。

全関映 新入生歓迎会のお知らせ

4月7日 新歓撮影会
(新入生が撮影に参加できるチャンス!!)

4月11日 新歓花見

4月16、30日 新歓上映会

場所、詳細などは
HP zke1968.wix.com/zke2015
Twitter　@zke1969

文芸部 読み切り小説 『冬の日常』 千歳 りくは

冬の住宅街には、誰一人として見当たらない。寒いと縮こまって視線が下がる。私は誰もいない通りをただ一人、地面を踏みしめるようにして歩いていた。

「こんにちは」

ふとそんな声がして、私は視線を前へと起こす。そこには、小学校低学年ぐらいの男の子が立っていた。

その子はこんなにも寒いというのに、なんと半袖半ズボンといういでたちをしている。いくら子供は風の子、と言っても、これはさすがに薄着過ぎないだろうか。私がそう思っていると、その子は私の考えを察したかのように口を開いた。

「僕は、夏から来たんだ」

「夏から？」

この子はいったい何を言っているんだろう。もしかして、からかわれてるのかな。でも、なぜだか疑う気にはなれなかった。

「そうなんだ。ずいぶん遠いところから来たんだね」

私は自然と、そう答えていた。するとその子はこくりと頷いた。

「寒そうなカッコしてるね」

「うん。本当に寒いよ」

私は羽織っていたフードつきコートを脱ぐと、その子の肩にかけてやった。やはりサイズが大きくて、裾が思いっきり地面に着いている。

「ありがとう、お姉さん。お姉さんは優しいね」

「そんな寒そうにしてる子がいたら、あったかい服着せてあげるのは当然でしょ」

ふと少し風が吹いて、冷たい空気がセーター越しに伝わってくる。

「やっぱり、薄着だと冷えるね。いかにも冬って感じ。君も寒かったでしょ？」

「そうだね。でも僕は今、冬を感じたけどなあ」

「えっ？」

「だって、すごくあったかいもん。夏にはこんなもの、無かったよ」

「そっか。君って、面白いね」

「ふふっ。僕、このコート気に入っちゃった」

そう言って、その子はくるりと一回転してみせた。

この子と話していると、なんだか不思議な感じがする。そもそも実際の男の子が、大人の女の人のことをお姉さんと呼ぶだろうか。そう思っていると、その子がまた口を開いた。

「ねえ、お姉さん」

「何？」

「もうすぐ春が来るよ」

「そうなの？」

「うん。それで、その次は夏」

「さすがに気が早くない？」

「そうかもね。でも、もうすぐだよ」

こんな小さい子でも、時の流れの速さを感じているのだろうか。私はふと、遠くの景色に目をやる。

「夏が来たら、きっとまた会えるね」

「えっ？」

私は視線を下に戻す。そこには、その子の姿はもうなかった。私はしばらくボーっと立ち尽くしていたけど、しばらくしてふと我に返った。

「あっ、私のコート……！」

私はただ一人、誰もいない通りを歩く。

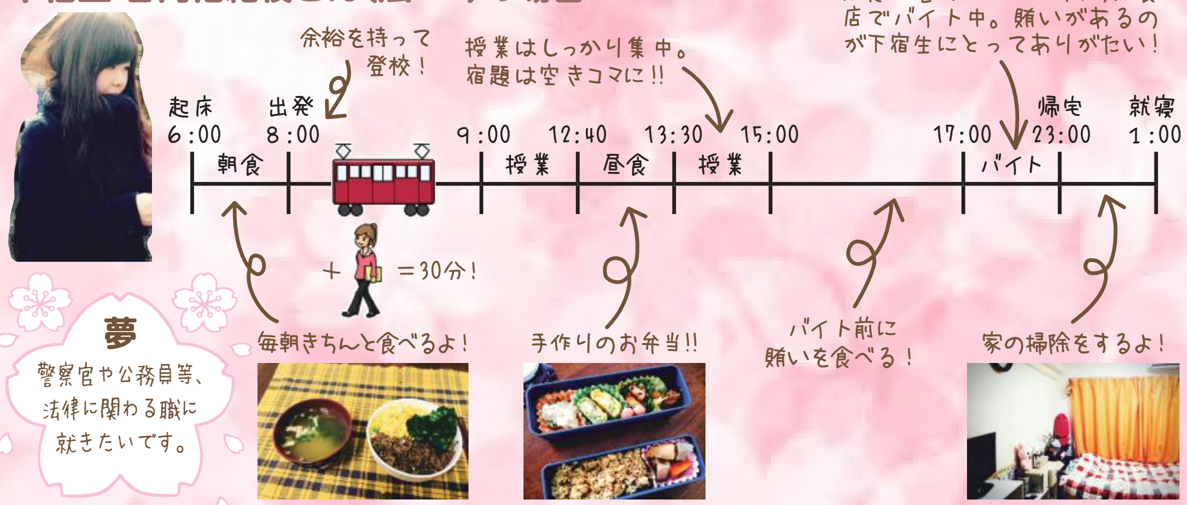
夏が来て、もしまたあの子に会えたら。もしかしたら、私のコートを着て現れるかもしれない。だって、真冬にあんなカッコしてた子だから。その時は、あのコートを返してもらおう。

私は視線を前に向ける。辺りはちらほらと雪が降っている。不思議と、そこまで寒い気はしなかった。

下宿生と実家生のライフスタイル

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！新生活はどうお過ごしでしょうか。今回は下宿生と実家生のライフスタイルについて取り上げました。これを参考にして、充実した大学生活を送ってもらえたらなと思います！

下宿生 谷内佑紀枝さん（法・2）の場合



夢
警察官や公務員等、法律に関わる職に就きたいです。

良いところ

生活術が嫌でも身に付くところだと思います。洗濯、掃除、料理、時間の使い方等、全てを自分で管理しなければならないため、本当にたくましくなります（笑）

悪いところ

時間が無い時（テスト期間等）、家事に時間が取られてイライラします。あと、友達の“家族でご飯”というツイートを見たときや、帰省後1週間はやはり寂しくなります（笑）

1年間下宿暮らしをしてみて

下宿はお金の面でも生活の面でも親に負担や心配を掛けてしまい、さらに家事全てを自分でしなければならないため大変なこともありますが、親の有り難みや、生活することの大変さ等、一人暮らしをしなければ気づけなかったことが本当にたくさんありました。私は、毎日行ってらっしゃい、お帰りなさいを言ってくれる管理人さんや、マンションの友達とお互い助け合って楽しく安全に暮らすことが出来ている今の環境に、またその環境を与えてくれている親に本当に感謝しています。

実家生 本田達也さん（商・2）の場合

夢
色々なことに挑戦しながら、具体的な夢を見つけていきたいです。

休日の過ごし方

休日は基本的に一日中、結婚式場でアルバイトをするか部活の大会がある時は参加をしています。平日は勉強や部活に集中したいので、休日にアルバイトを頑張っています。

良いところ 悪いところ

良い点は家事をしなくてもよいところと、ペットが飼えるところです。逆に悪い点は友達を家に呼びにくく、両親から様々なことに細かく注意されるので、うるさいなと感じるところです。

春学期の目標

最大の目標は8月からアメリカに行くので、それまでに英語力を向上させることです。また、部活のスピーチ大会で優勝をしたいと思っているので、今まで以上に練習に励むつもりです。

新入生へ一言

善は急げというように、やってみたいと思ったら、すぐに行動に移すことが大切です。大学生のうちにやりたいことは全てやりましょう！

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・普通車（AT/MT）・
大型二輪車（AT/MT）・普通二輪車（AT/MT）

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBIL SCHOOL SAS SINCE 1963
兵庫県公安委員会指定
三田自動車学院
三田市志手原1147−1 TEL:079−562−2995
E-mail:sanda-as@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com
三田自動車学院携帯用HP QRコード